



鳴鹿小学校

校長室だより

第4号 令和5年6月12日(月)



4年ぶりの鳴鹿地区体育祭

5月28日、4年ぶりとなる鳴鹿地区体育祭が開かれました。

ウィズコロナといわれる時代における地区体育祭のあり方を模索する中での開催であり、過去の体育祭の内容とは違った形での開催となりました。本校保護者でもある地区体協の藺田理事長、杉山事務局長には、幾度となく来校していただき、学校の意見を聞き入れていただきました。半日で、種目数を減らし、時間的に十分な余裕をもった流れとなりました。地区対抗という形式をとらず、子どもと大人のふれあいを中心とした内容でした。

当日は、心配していた熱中症になるような暑さもなく、心地よい春風の吹く、絶好の体育祭日和となりました。保護者と風船をはさんで走ったり、おんぶしたり、普段できない運動をすることで、保護者との絆も深まったことと思います。おかげで、子どもたちの笑顔がいっぱいの一日となり、どの子も満足げでした。

地域の中で育つ子どもの姿を目の当たりにした一日でした。



日曜日の鳴鹿地区体育祭では、お家の人や地域の人たちと一緒に活動できて、楽しかったですね。校長先生は、体育祭の日に、たくさんの地域の人たちとお話ししました。地域の人たちは皆さんが頑張る姿を見て、とても喜んでいました。そして、地域の人たちは、鳴鹿っ子が明るく、素直に成長してくれることを期待しているのだなあと感じました。皆さんは、そんな地域の人たちの願いにこたえなければなりません。

そこで今日は、『一人一人が学校を代表する』というお話をします。少し難しいお話なので、低学年は少し頑張って聞いてください。

皆さんは、校外学習とか、町探検とかで学校の外に勉強に行くことがありますね。高学年になると音楽会や陸上記録会などの大会で出かけることもあります。そういう時に、どんな心構えをしているといいだろうかというお話です。これは、1年生でも6年生でも同じことです。

例えば、5月1日に1・2年生は校外学習で動物園に行きましたね。

動物園の係の方や他に見学に来ている人たちは、1・2年生を見て、「鳴鹿小学校の子どもたちだ。」と思ったと思います。1・2年生のみなさんは、行儀よく、礼儀正しくしていたので、「鳴鹿小学校の子どもたちは、お行儀がよくて礼儀正しい。」と思われたはずですよ。

もし、あの時、いたずらをしたり、困ったことをしていたとすれば、「鳴鹿小学校の子どもたちは、いたずらしたり、困ったことをしたりして迷惑だ。」と思われたことでしょう。すると、動物園に行っていない他の学年も一緒に「鳴鹿小学校の子どもたちは…」と思われてしまうのです。

6年生は秋に修学旅行に行きます。名所といわれるところへ行くとありますが、例えば、夜泊まるホテルで、騒いだり、失礼な態度をとったりすると、

「鳴鹿小学校は、来年からお断り！」ということになり、5年生以下の修学旅行に影響が出ます。反対に、礼儀正しく、気持ちよく宿泊すれば、「来年も是非利用してください。」となるのです。

このように、学校の外で活動するときには、みなさん一人一人の行動が鳴鹿小学校全体を表すことになります

これが、『一人一人が学校を代表する』ということです。ですから、学校の外で勉強するときには、鳴鹿小学校というバッジを胸につけているつもりで行動することが大事です。

みなさん一人一人が、「自分は学校を代表しているのだ。」という気持ちをいつも忘れずに行動することができたなら、鳴鹿小学校はますます立派な学校になっていくのではないかと思います。

5・6年生は14日に坂井市音楽会で発表をします。これは本物の鳴鹿小学校の代表としての発表です。5・6年生は、一人一人が鳴鹿小学校のプライドを自覚して、頑張ってもらいたいと思います。

下級生の皆さんも、鳴鹿小学校を代表してくれる高学年を応援してくださいね。(抜粋)

